

平成30年度「県立学校による地域との協働推進事業」研修会

- 1 日時 平成30年9月20日(木) 13:30~16:00
- 2 会場 県立教育研究所 中講座室1
- 3 参加者 各県立学校教職員 計42名
- 4 内容 13:30~13:35 開会行事
13:35~13:45 事業説明
 人権・地域教育課 地域教育係 指導主事 吉村 俊朗
13:45~14:45 実践発表
 県立御所実業高等学校 教諭 山田 芳弘
 県立盲学校 教頭 山中 俊和
14:50~15:30 グループワーク
 「各校で取り組んでいる地域との協働」の交流
15:30~16:00 講演「なぜ学校と地域との『連携・協働』が必要なのか」
 奈良県CSアドバイザー(文部科学省CSマイスター) 高木 和久

5 行政説明概要

- ・県立学校における「地域と共にある学校づくり」の目指す成果とは、子どもたちにとっては自己有用感の獲得・規範意識の醸成など、学校にとっては地域拠点としての機能向上・学校教育の質の向上・適切な役割分担による子どもと向き合う時間の増加など、地域にとっては地域の魅力創造・地域活性化・教育の当事者としての責任感などである。
- ・県立学校における地域とは、子どもたちの学びのフィールドとしての社会全体と捉える。
- ・しっかりした熟議を進めながら、学校全体で組織的に取り組んでいただきたい。

6 研修会実施内容(概要)

(1)実践発表

○県立盲学校

- ・月ヶ瀬治療実習は35年ほど前から続いており、生徒たちにとっても実技の学習機会の確保やいろいろな症状に触れる機会となるなど、地域の方々、生徒共に意義のある活動となっている。
- ・障害により比較的他の人とのコミュニケーションの機会が少ない中で、大変良い機会として捉えている。盲学校は県下に1校なので、地域とは学校周辺でもあり、県下全域ともいえる。その中で、理療という強みを活かした取組ができています。

○県立御所実業高等学校

- ・古くからの地場産業としての製菓業と、本校の特色である薬品科学科を中心として、社会に開かれた教育課程の実現として入浴剤の開発と商品化に向けて取り組んでいる。
- ・今後も入浴剤の開発や地元企業との関わりだけでなく、積極的に広い社会に出て行きたいと考えている。

(2)グループワーク

- ・「各校で取り組んでいる地域との協働」をテーマに、各校の取組を発表し、その後、取組に対する「感銘を受けた点」と「改善点」をそれぞれ出し合い交流した。

(3)講演

- ・現在の分業型社会が孤立と希薄化を生んでいる。今の子どもたちに本当にどのような力をつけてあげたら良いのかを考える際に、協働型(分業型を少しずつ重ねて活動する)を考えていくことがコミュニティ・スクールということ。
- ・何度も熟議(S: Standing)を重ねることで問題提起や課題意識の共有が進み、そこから企画・実施・評価・改善のSPDCAサイクルを活用することが大切になる。
- ・人(担当者や協議会委員等)が入れ替わっていく中で、事業だけが残っていくことがあるが、それでは子どもは育たない。学校は苦手としているが、スクラップ&ビルドも大切である。



7 感想

- ・学びのフィールドの全てが地域という視点をもらった。
- ・学校の特色を生かした取組に興味深かった。普通科でも企業と深い関わりを持つことができればと思った。
- ・事業に追われて、「子どものどんな力を育てるのか」という視点が欠けていたことに気づかされた。

